

2015年の大雨

「平成27年9月関東・東北豪雨」が発生し記録的な大雨

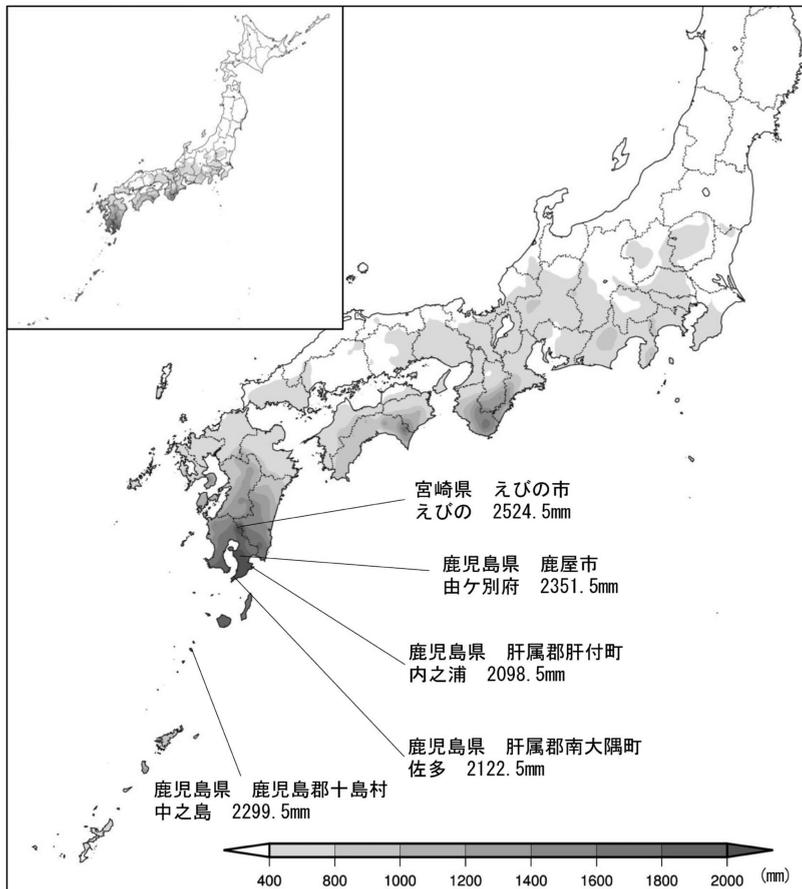
1. 概要

平成27年の梅雨入りは、沖縄地方、東北南部、東北北部でかなり遅く、奄美地方、北陸地方で遅かった。東北南部の梅雨入りは6月26日ごろで、1951年の統計開始以来1967年と並んで最も遅かった。そのほかの地方は、平年並か早かった。

梅雨明けは、沖縄地方、関東甲信地方でかなり早かった。沖縄地方の梅雨明けは6月8日ごろで、1951年の統計開始以来最も早かった。そのほかの地方は、

平年並か遅かった。

6月2日から7月14日にかけては、梅雨前線や台風第9号の影響で、熊本県や九州南部・奄美地方を中心に大雨となり、被害が発生した。また、7月15日から18日にかけては、台風第11号による大雨や暴風の影響で、四国地方や近畿地方、東日本を中心に被害が生じた。さらに、9月7日から11日にかけては、台風第18号による大雨に加え、これに続く「平成27年9月関東・東北豪雨」が発生し、関東地方と東北地方を中心に甚大な被害が生じた。



第1図 総降水量分布図 (期間：6月2日～7月26日)。

2. 主な大雨

ここでは、人的被害や社会活動に影響をもたらした大雨について、気象と災害の状況をまとめた。被害状況については、主に気象庁が取りまとめた資料によるが、一部、内閣府等発表の資料も使用した。また、負傷者等の数には風等を原因とするものも含まれる。なお、風速や降水量などの観測値を記載する際の観測地点名は、气象台や測候所などの場合はその官署名を、アメダス地点の場合は都道府県名、市町村名及び地点名とした。

- (1) 5月11日～5月13日：
 沖縄・奄美から東日本
 (大雨、暴風、高波、
 突風) <低気圧、台風
 第6号>

5月4日03時にカロリン
 諸島で発生した台風第6号

は、11日から12日にかけて南西諸島付近を北東に進み、12日15時に種子島の東の海上で温帯低気圧に変わった。その後、13日にかけて、台風から変わった低気圧は、前線を伴って本州南岸を進み、三陸沖を通過して千島近海に達した。このため、全国的に雨が降り、南西諸島や四国地方、近畿地方、東海地方で日降水量100mmを超える大雨となったところがあった。また、南西諸島から東日本にかけて、一部で暴風や強風となり、南西諸島では大しけとなった。

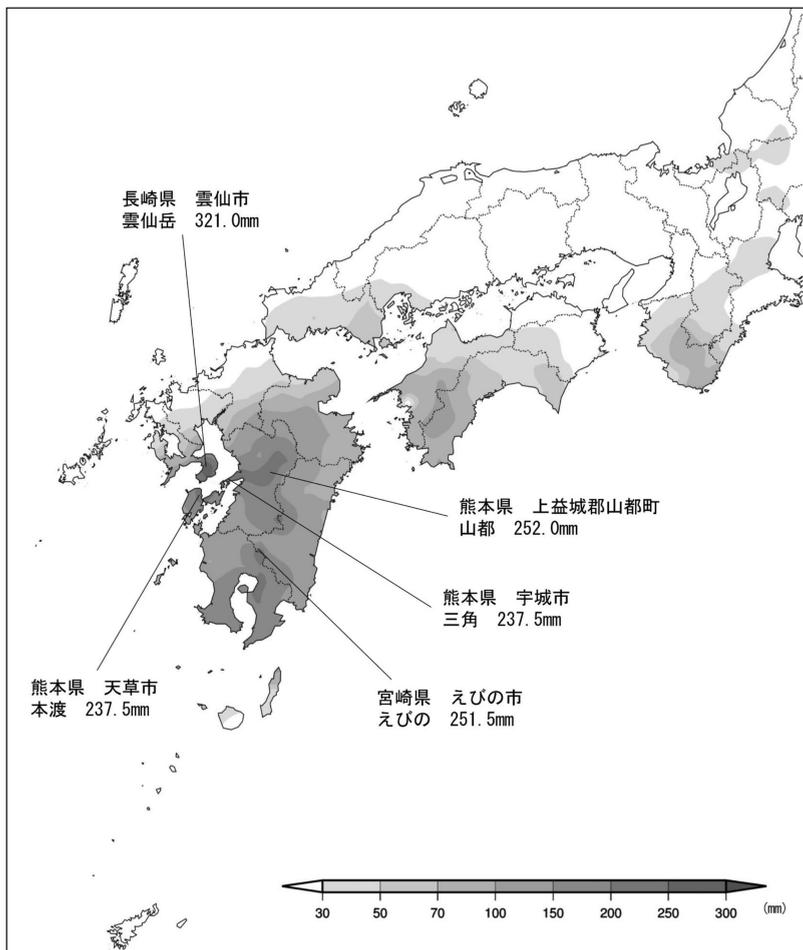
これらの影響で、東日本を中心に住家被害が生じ、沖縄・奄美から東日本にかけての各地で停電や道路の通行不能、鉄道の運休、航空機・フェリーの欠航等の交通障害が発生した。このほか、12日には、台風に伴って南から暖かく湿った空気が流れ込んで大気の状態が非常に不安定となった

ため、鹿児島県伊仙町で強さが藤田スケールでF1の竜巻が発生し、負傷者6名の人的被害や全壊を含む住家被害が生じた。(被害の状況は、気象庁調べ)

(2) 6月2日～7月26日：全国(大雨, 暴風, 高波, 突風) <梅雨前線, 台風第9号, 台風第11号, 台風第12号, 大気不安定>

6月2日から7月26日にかけて、日本付近に停滞する梅雨前線の活動が断続的に活発となった。また、この間、7月9日から10日にかけて、台風第9号が沖縄地方に接近したほか、7月16日から17日にかけて台風第11号が、7月23日から26日にかけて台風第12号が日本に接近し上陸した。

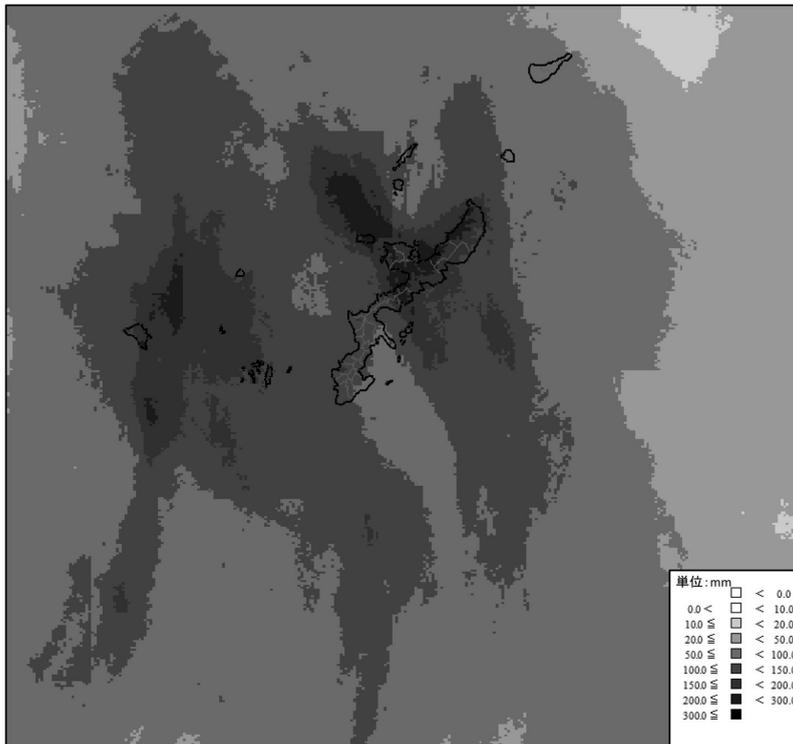
台風や前線、暖かく湿った空気の影響により、全国各地で大雨となった。6月2日から7月26日にかけて



第2図 総降水量分布図(期間：6月10日～6月12日)。

の総降水量は、九州南部・奄美地方で総降水量2000mmを超えた。また、6月と7月の月別降水量平年値の合計との比較では、鹿児島県伊仙町伊仙で3倍を超えたほか、鹿児島県を中心に多くの地点で2倍を超え、記録的な大雨となった。最大1時間降水量は、九州南部・奄美地方、四国地方及び東北北部で、80mm以上の猛烈な雨を観測したところがあった。第1図に6月2日から7月26日における総降水量分布図を示す。また、この期間に発生した特に顕著な現象に対応させ、梅雨前線による6月10日から12日にかけての降水分布を第2図に、台風第9号による7月10日の降水分布を第3図に、台風第11号による7月15日から18日にかけての降水分布を第4図に、台風第12号による7月25日の降水分布を第5図に示す。

また、台風の影響により、沖縄・奄美や四国地方、



第3図 沖縄本島付近の解析雨量（期間：7月10日00時～24時）。

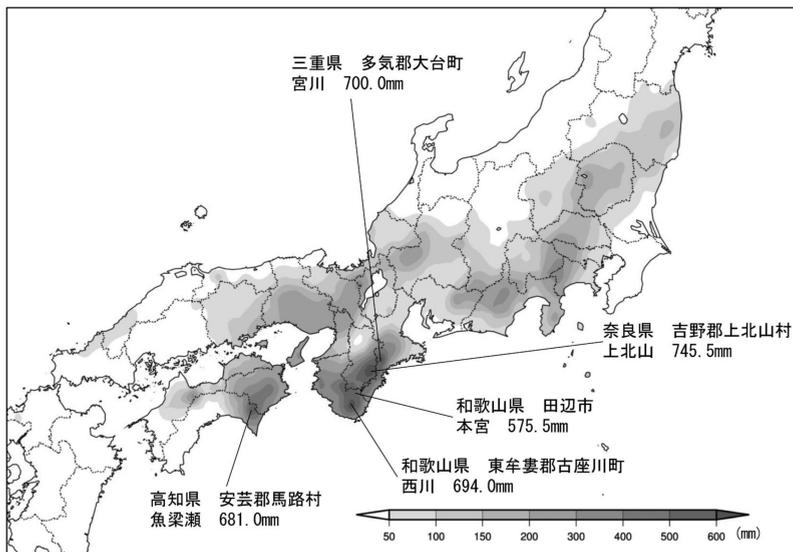
近畿地方で猛烈な風や非常に強い風を観測し、海は猛烈なしげや大しげとなった。

一方、前線の影響などにより大気の状態が非常に不安定となったため、京都府、群馬県、茨城県、山形県、岩手県でダウンバースト等の突風が発生した。

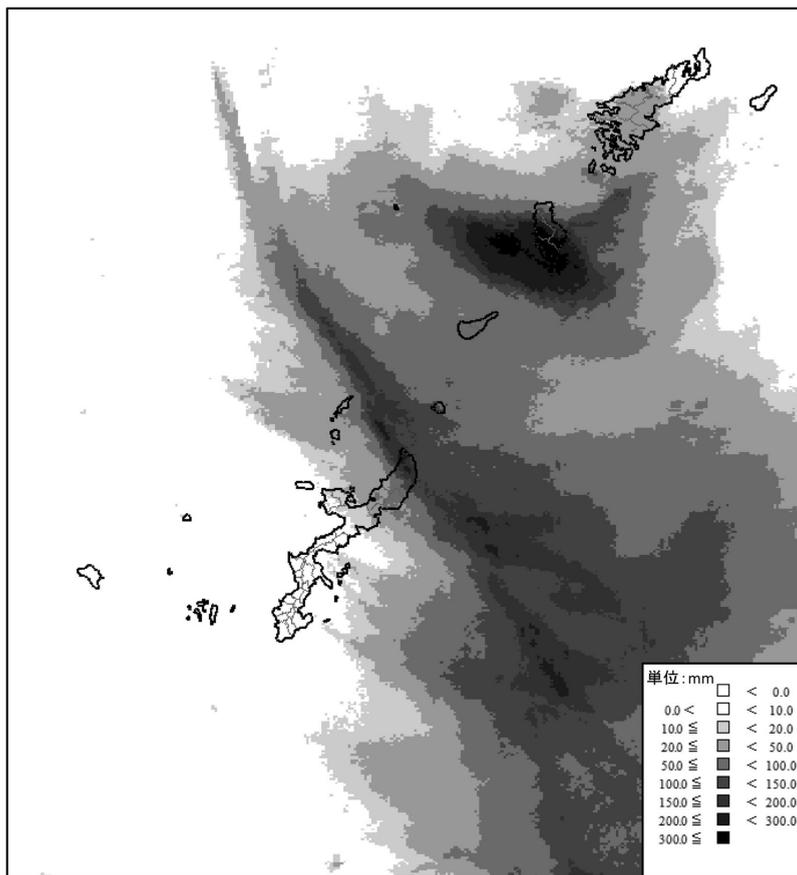
(3) 8月6日～8月12日：
南西諸島から東日本
(大雨、暴風、高波、
突風) <台風第13号、
台風第14号>

8月1日15時にマリアナ諸島の東の海上で発生した台風第13号は、西北西に進み、7日から8日にかけて先島諸島に接近した。また、8月7日15時に小笠原諸島の南東の海上で発生した台風第14号は、小笠原近海で進路を北に変え、その後速度を上げながら北東に進んだ。

台風第13号の影響で、八重山地方を中心に住家被害が発生したほか、停電、航空機・船舶の欠航等の交通障害が発生した。また、8日には沖縄県石垣市で強さが藤田スケールでF0の竜巻と見られる突風が発生し、負傷者2名となったほか住家屋根の飛散等の被害が発生した。一方、台風第14号の影響で、東京都小笠原村母島で8日の日降水量が214.0 mmとなる大雨となった。10日から12日にかけては、台風や台風から変わった熱帯低気圧による高



第4図 総降水量分布図（期間：7月15日～7月18日）。



第5図 沖縄本島付近の解析雨量（期間：7月25日00時～24時）。

波の影響により、沖縄県、徳島県、千葉県をあわせて7名が海で流され死亡した。（被害の状況は、気象庁調べ）

(4) 8月17日：東日本（大雨，突風）＜大気不安定＞

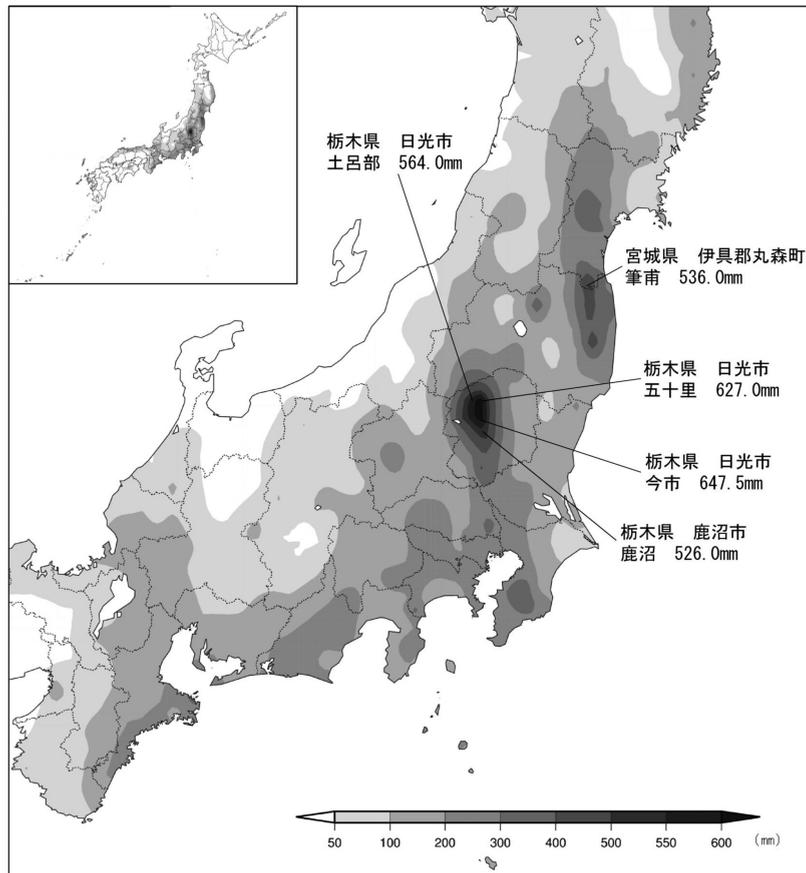
8月17日は、前線が九州付近から関東付近にかけて停滞し、低気圧が日本海中部を北東へ進んだ。前線に向かって暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定となった影響で、東海地方で200 mmを超える大雨となった。また、東海地方や関東地方を中心に突風が発生し、停電や住家被害が発生した。特に神奈川県藤沢市から横浜市にかけて強さが藤田スケールでF0の竜巻が発生し負傷者2名となり、30棟を超える住家被害が生じた。（被害の状況は、気象庁調べ）

(5) 8月21日～8月26日：
沖縄・奄美から東日本
（大雨，暴風，高波，
高潮）＜台風第15号，
台風第16号＞

8月21日から22日にかけて、本州付近に前線が停滞し、前線上の低気圧が対馬海峡から秋田沖へ進んだ。また、8月15日03時にグアム島の東の海上で発生した台風第15号が、沖縄の南海上を北上して、23日に非常に強い勢力で西表島付近を通過した。その後、台風は進路を北東に変え、25日04時過ぎに鹿児島県阿久根市付近、同日05時過ぎに熊本県宇城市付近を通過した後、同日06時過ぎに熊本県荒尾市付近に上陸した。台風は、日本海に進んだ後、25日21時に隠岐諸島の北西の海上で温帯低気圧に変わった。このため、沖縄県石垣市石垣島で23日21時16分に71.0 m/sの最大瞬間

風速を観測するなど、南西諸島や九州を中心に猛烈な風が吹き、海上は猛烈なしけとなったほか、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、西日本では大雨となったところがあった。一方、台風第16号が、21日から23日にかけて小笠原諸島の東の海上を通り、その後、北東へ進んだ。これらの台風の影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で風が強くなり、うねりを伴った波が高くなり、一部で高潮となったところがあった。

台風第15号の影響により、熊本県で死者1名となり、九州を中心に2,000棟を超える住家被害が生じた。また、熊本県で集落が孤立したほか、各地で停電、水道被害、電話の不通等ライフラインへの被害や、道路の通行不能、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した。（被害状況は、9月8日現在の内閣府の情報による）



第6図 総降水量分布図（期間：9月7日～9月11日）。

における総降水量分布図を示す。

この大雨により、土砂災害、浸水、河川の氾濫等が発生し、宮城県、茨城県及び栃木県であわせて死者8名の人的被害となったほか、関東地方や東北地方を中心に損壊家屋6,000棟以上、浸水家屋12,000棟以上の住家被害が生じた。このほか、各地で停電、水道被害、電話の不通等ライフラインに被害が発生したほか、道路の通行不能、鉄道の運休、船舶の欠航等の交通障害が発生した。（被害状況は、平成28年1月12日現在の内閣府の情報による）

9月9日から11日にかけて関東地方及び東北地方で発生し甚大な被害をもたらした大雨について、気象庁は「平成27年9月関東・東北豪雨」と命名した。

(6) 9月7日～9月11日：全国（大雨）＜台風第18号、台風第17号、暖湿気＞

9月7日21時に小笠原諸島の西の海上で台風第18号が発生し、日本の南海上を北上した後、9日09時半頃に愛知県西尾市付近に上陸した。その後、台風は日本海に進み、同日15時に温帯低気圧に変わった。

台風第18号や前線の影響で、西日本から北日本にかけての広い範囲で大雨となり、特に9日から11日にかけては、台風第18号から変わった低気圧に流れ込む南よりの風、後には台風第17号の周辺からの南東風が主体となり、湿った空気が流れ込み続けた影響で、多数の線状降水帯が次々と発生し、関東地方と東北地方では記録的な大雨となった。7日から11日までの総雨量は、関東地方で600mm、東北地方で500mmを超えたほか、9月の月降水量の平年値の2倍を超える大雨となったところがあった。第6図に9月7日から11日

(7) 9月23日～9月24日：四国地方（大雨）＜前線＞

9月23日から24日にかけて、華中の低気圧が前線を伴い九州の西海上へ進んでほぼ停滞した。また、前線上の本州南岸に低気圧が発生した。これらの影響で、南西諸島から東日本にかけて雨が降り、四国の太平洋側を中心に大雨となった。

この大雨により高知県や徳島県を中心に、住家の浸水が発生したほか、道路の通行不能や鉄道の運休等の交通障害が発生した。（被害の状況は、気象庁調べ）

(8) 9月26日～9月29日：沖縄地方（大雨、暴風、高波）＜台風第21号＞

9月22日21時に沖ノ鳥島の南南東の海上で発生した台風第21号は、26日から27日にかけて沖縄の南の海上を北西に進んだ後、28日に猛烈な勢力で先島諸島に接

近した。その後、台風は台湾に上陸し、引き続き西へ進んだ。この台風の影響で、沖縄県与那国町与那国島では、28日に最大瞬間風速81.1 m/sを観測し、統計開始以来の1位の値を更新したほか、八重山地方を中心に猛烈な風が吹き、先島諸島ではうねりを伴い猛烈なしけ、沖縄本島地方でも大しけとなった。

このため、与那国島では300棟を超す住家被害が発生したほか、八重山地方を中心に停電や電話の不通等のライフライン被害が生じた。(被害状況は、平成27年10月5日の内閣府の情報による)

(9) 10月1日～10月3日：東日本から北日本(大雨, 暴風, 高波) <低気圧>

10月1日から2日にかけて、黄海の低気圧が急速に発達しながら日本海を北東に進み、伴う前線が日本付近を通過した。その後、3日にかけて低気圧はオホーツク海に進んだ。このため、全国的に雨が降り、九州北部地方を中心に大雨となったところがあった。また、北海道で暴風となり、西日本から北日本にかけて暴風や強風となったところがあったほか、北日本を中心に大しけとなった。

低気圧の影響により、北海道で死者1名となり、北海道を中心に300棟を超す住家被害が生じたほか、東日本や北日本で停電や電話の不通等のライフライン被害

や道路の通行止め、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が発生した。(被害状況は、平成27年10月9日の内閣府の情報による)

(10) 10月7日～10月9日：北日本(大雨, 暴風, 高波, 高潮) <台風第23号>

10月2日15時にウェーク島の南の海上で発生した台風第23号は、西北西へ進み、南鳥島の西海上で北に向きを変えた後、日本の東海上を北上し、8日03時に日本の東海上で温帯低気圧に変わった。台風から変わった温帯低気圧は引き続き北へ進み、北海道の東海上を通過して、9日にはオホーツク海に達した。

この台風や台風から変わった低気圧の影響で、北陸や北日本で雨が降り、北海道オホーツク海側で大雨となったところがあったほか、北日本の一部で暴風や強風となり、東日本や北日本の太平洋側では大しけ、北海道の一部では猛烈なしけとなった。また、北海道では高潮となったところがあった。

このため、北海道で強風により死者1名となり、北海道や秋田県で住家被害や浸水害が発生したほか、停電や道路の通行不能、鉄道の運休、フェリーの欠航等の交通障害が生じた。(被害状況は、平成27年10月9日現在の内閣府の情報等による)

(気象庁予報部予報課)

気候情報

2015年の台風

発生数は平年並、日本への上陸数は平年を上回る4個

1. 概要

台風が発生数は平年並の27個(平年値25.6個)であった。日本への台風の影響数は平年より多い14個(平年値11.4個)であったが、地域別にみると西日本で平年を概ね上回った一方、関東甲信地方への影響数が1個(平年値3.1個)、東北地方への影響数が0個(平年値2.6個)となるなど、東日本や北日本で平年を概ね下回った。上陸数は台風第11号、第12号、第15

号、第18号の4個(平年値2.7個)と平年を上回った。

第1表に台風が発生数、上陸数、接近数を、第2表に発生した台風の一覧を示す。

2. 日本に影響を及ぼした主な台風

日本に影響した台風(本稿では台風の中心が日本から概ね500 kmに入った場合とする)のうち、主な台風について以下に概要を示す。また、時刻について

第1表 平成27年(2015年)の台風発生数、日本への上陸数*1、日本への接近数*2と平年値及び平成26年(2014年)との比較。

項目	月	月												年間
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	
平年値	発生数	0.3	0.1	0.3	0.6	1.1	1.7	3.6	5.9	4.8	3.6	2.3	1.2	25.6
	上陸数					0.0	0.2	0.5	0.9	0.8	0.2	0.0	2.7	
	接近数				0.2	0.6	0.8	2.1	3.4	2.9	1.5	0.6	0.1	11.4
平成26年 (2014年)	発生数	2	1		2		2	5	1	5	2	1	2	23
	上陸数							1	1		2			4
	接近数						2	3	2	3	2	1		12
平成27年 (2015年)	発生数	1	1	2	1	2	2	3	4	5	4	1	1	27
	上陸数							2	1	1				4
	接近数					2		3	4	4		1		14

(注)・平年値は、昭和56年(1981年)～平成22年(2010年)の30年平均。

・日本への接近は2か月にまたがる場合があり、各月の接近数の合計と年間の接近数とは必ずしも一致しない。

上陸*1 台風の中心が北海道、本州、四国、九州の海岸線に達した場合を「上陸」という。小さい島や半島を横切って短時間で再び海に出る場合は「通過」とする。

接近*2 台風の中心が、日本から概ね300 km以内に入った場合を「接近」という。

は、全て日本時で表記した。第3表に日本に影響した台風の一覧、第1図にその経路図を示す。

(1) 台風第6号(1506 NOUL ノウル)

5月2日15時にカロリン諸島近海で発生した熱帯低気圧は西北西へ進み、4日03時にヤップ島の東の海上で台風第6号となった。台風は徐々に北西に進路を変え、10日09時にルソン島の東の海上で勢力が最大となった。その後、台風は徐々に北東に進路を変え、南西諸島に沿って加速しながら進み、12日15時に種子島の東の海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は引き続き北東へ進み、16日15時に日付変更線付近で消滅した。

(2) 台風第7号(1507 DOLPHIN ドルフィン)

5月6日21時にポンペイ島の南の海上で発生した熱帯低気圧は東へ進み、北西に進路を変えた後、9日21時に同島の東の海上で台風第7号となった。台風は北へ進んだ後、西に進路を変え、16日15時にマリアナ諸島の西の海上で勢力が最大となった。その後、台風は北東に進路を変えて加速し、21日09時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は引き続き北東へ進み、24日15時前にベーリング海で東経180度を越えた。

(3) 台風第9号(1509 CHAN-HOM チャンホン)

6月29日15時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は北北東へ進んだ後、北西に進路を変え、30日21時に同海域で台風第9号となった。台風は、徐々に進路を西南西に変えた後、北に進み、その後進路を北西に変え、7月10日03時に宮古島近海で勢力が最大となった。台風は引き続き北西に進み、同日の午前中に宮古島と久米島の間を通過し、東シナ海で北北東に進路を変えた後、13日09時に朝鮮半島北部で温帯低気圧に変わり、14日00時に同地域で消滅した。

(4) 台風第11号(1511 NANGKA ナンカー)

7月3日03時にマーシャル諸島近海で発生した熱帯低気圧は北西へ進み、4日03時に同海域で台風第11号となり、徐々に進路を西に変えた。台風は進路を北西に変えた後、9日15時にマリアナ諸島北部で勢力が最大となった。その後、台風は日本の南海上で急激に進路を北北西に変え、16日23時頃高知県室戸市付近に上陸し、四国を抜けた後、17日06時頃岡山県倉敷市付近に再び上陸した。台風は進路を北東に変え、その後17日21時に日本海で熱帯低気圧に変わり、18日21時に同海域で消滅した。

(5) 台風第12号(1512 HALOLA ハロラ)

7月13日03時に、発達した熱帯低気圧がマーシャル諸島の東の海上で東経180度を越えて北太平洋西部に

第2表 平成27年(2015年)に発生した台風の一覧表。

台風番号	台風名	熱帯低気圧の発生			台風の発生			台風期間中の最低(大)値			熱帯低気圧または温帯低気圧となった日時と位置			消滅前の最後確認された日時と位置,又は域外に出た最初の日時						
		月日時	北緯	東経	月日時	北緯	東経	海面気圧	風速	強風半径	月日時	北緯	東経	種類	月日時	北緯	東経			
1	MEKKHALA	1 13 09	8.7	142.9	1 13 21	8.6	141.7	1 17 15	975	1 17 15	30	1 17 09	N:390 S:280	1 19 03	16.0	122.5	TD	2 12 21	18.2	152.8
2	HIGOS	2 6 21	8.6	158.3	2 8 03	11.6	157.5	2 10 15	940	2 10 15	45	2 8 21	N:390 S:220	2 11 21	16.1	152.5	TD	3 21 21	13.8	121.7
3	BAVI	3 10 15	4.3	173.4	3 11 15	6.8	170.0	3 15 15	990	3 15 21	23	3 15 09	N:600 S:220	3 17 21	15.4	134.5	TD	4 7 09	20.6	116.8
4	MAYSAK	3 26 21	6.7	159.9	3 28 03	7.8	156.8	4 2 03	910	4 2 03	55	4 3 03	N:330 S:280	4 5 15	18.6	121.1	TD	4 6 09	8.9	150.7
5	HAISHEN	4 3 03	7.3	156.9	4 4 15	8.7	152.3	4 5 15	998	4 5 15	18	4 4 15	150	4 5 21	8.9	150.8	TD	5 16 09	48.7	178.1
6	NOUL	5 2 15	7.4	144.1	5 4 03	9.4	140.7	5 10 15	920	5 10 15	55	5 11 03	280	5 12 15	30.4	132.2	L	5 24 15	域外	
7	DOLPHIN	5 6 21	4.0	157.9	5 9 21	5.2	161.9	5 17 03	925	5 17 03	50	5 15 21	NE:440 SW:280	5 21 09	39.7	155.7	L	6 25 09	22.4	105.9
8	KUJIRA	6 20 03	15.0	112.2	6 21 09	15.6	111.4	6 24 09	985	6 24 09	23	6 22 21	SW:260 NE:150	6 25 03	21.6	106.3	TD	7 13 09	40.0	126.0
9	CHAN-HOM	6 29 15	8.6	160.4	6 30 21	10.3	160.4	7 10 18	935	7 10 18	45	7 11 21	E:700 W:500	7 10 09	21.4	111.2	TD	7 10 09	21.4	111.2
10	LINFA	7 2 03	13.4	129.8	7 2 21	14.6	128.4	7 9 09	980	7 9 15	25	7 7 09	S:390 N:280	7 17 21	36.8	134.3	TD	7 18 15	40.0	136.5
11	NANGKA	7 3 03	8.3	171.8	7 4 03	9.8	170.8	7 10 09	925	7 10 09	50	7 16 18	E:700 W:500	7 26 21	33.8	130.0	TD	8 12 09	33.3	126.7
12	HALOLA	域外			7 13 09	13.0	179.8	7 23 03	955	7 23 03	40	7 25 12	SE:300 NW:260	8 11 21	33.0	123.3	TD	8 18 09	域外	
13	SOUDELOR	7 30 03	13.3	162.2	8 1 15	14.0	152.1	8 4 15	900	8 4 15	60	8 8 09	SE:390 NW:280	8 14 09	37.2	161.6	L	8 30 15	45.5	125.8
14	MOLAVE	8 6 09	17.6	149.3	8 7 15	22.6	147.2	8 11 21	985	8 11 21	23	8 14 03	460	8 25 21	36.5	132.3	L	8 29 15	47.7	168.7
15	GONI	8 14 03	12.2	151.1	8 15 03	13.0	148.2	8 24 18	930	8 24 18	50	8 25 18	600	8 25 15	37.6	158.0	L	9 13 09	域外	
16	ATSANI	8 14 09	14.8	163.5	8 15 03	14.8	162.4	8 20 09	925	8 20 09	50	8 25 09	E:750 W:330	9 11 21	43.0	148.0	L	9 11 21	41.0	138.5
17	KILO	域外			9 2 09	24.0	179.8	9 6 15	950	9 6 15	40	9 11 15	N:390 S:280	9 9 15	37.2	136.3	L	9 15 15	14.3	105.8
18	ETAU	9 6 09	19.8	139.7	9 7 21	25.1	138.4	9 9 03	985	9 9 03	25	9 9 09	9 9 09	9 15 09	15.3	106.2	TD	9 26 15	44.4	174.0
19	VAMCO	9 13 09	15.6	112.9	9 14 03	15.1	110.8	9 14 21	998	9 15 03	18	9 14 15	NW:330 SE:280	9 15 09	15.3	106.2	TD	9 30 15	28.7	116.7
20	KROVANH	9 14 03	13.9	151.6	9 16 03	18.7	149.1	9 18 09	945	9 18 09	45	9 17 09	NE:330 SW:220	9 21 21	37.0	152.2	L	10 5 09	23.6	108.2
21	DUJUAN	9 20 03	13.5	148.1	9 22 21	16.2	137.5	9 28 15	925	9 28 15	55	9 28 00	NW:560 SE:500	9 29 21	26.4	116.4	TD	10 12 03	55.8	153.5
22	MUJIGAE	10 1 03	12.6	126.4	10 1 21	15.2	122.7	10 4 15	950	10 4 15	45	10 4 15	E:440 W:280	10 5 09	23.6	108.2	TD	10 21 15	19.4	122.7
23	CHOI-WAN	10 1 15	16.9	166.9	10 2 15	18.5	167.2	10 7 21	965	10 7 21	30	10 7 21	N:850 S:750	10 8 03	37.4	149.8	L	10 27 03	域外	
24	KOPPU	10 12 09	13.8	151.0	10 13 21	16.0	139.2	10 18 03	925	10 18 03	50	10 19 21	N:440 S:330	10 21 15	19.4	122.7	TD	10 21 15	19.4	122.7
25	CHAMPI	10 13 09	12.5	161.4	10 14 09	14.0	156.7	10 19 09	930	10 19 09	50	10 25 15	SE:560 NW:390	10 25 21	37.0	167.6	L	11 27 09	29.6	150.4
26	IN-FA	11 17 03	3.5	163.6	11 17 21	4.7	159.8	11 21 15	935	11 21 15	50	11 24 21	NE:390 SW:280	11 27 09	28.1	147.4	L	12 17 09	12.5	120.1
27	MELOR	12 10 09	7.1	145.2	12 11 15	8.9	138.0	12 14 15	935	12 14 15	50	12 14 15	N:280 S:220	12 17 09	12.5	120.1	TD	12 17 09	12.5	120.1

表中の日はすべて日本時(JST)。

「台風期間中の最低(大)値」の起時は、最低(大)となった最後の時刻である。

(但し、風速はノットで解算し、5m/s単位に換算しているため必ずしもこれに当てはまらない事がある。)

強風域とは、台風の周辺で平均風速がおおむね15m/s以上の領域。

種類欄の「TD」は熱帯低気圧,「L」は温帯低気圧を表す。

域外とは、日付変更線(東経180°)より東側、東経100°より西側、又は北緯60°より北側の領域。

第3表 平成27年(2015年)に日本に影響した台風の概要表(熱帯低気圧, 温帯低気圧の期間は除く)。

台風 番号	日本への影響 (台風の中心が日本から概ね500 km 以内に入った場合)			日本への接近 (台風の中心が日本から概ね300 km 以内に入った場合)			上陸, 通過
	月日		地域	月日		地域	
	始	終		始	終		
6	5/11	5/12	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	5/11	5/12	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方	上陸または通過せず。
7	5/19	5/20	伊豆・小笠原諸島	5/19	5/20	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。
9	7/9	7/12	沖縄・奄美, 九州北部地方	7/9	7/10	沖縄地方	上陸または通過せず。
11	7/15	7/17	西日本, 東日本	7/16	7/17	西日本, 東海地方, 北陸地方	16日23時頃, 高知県室戸市付近に上陸した。 17日06時頃, 岡山県倉敷市付近に上陸した。
12	7/21	7/26	沖縄・奄美, 西日本, 伊豆・小笠原諸島	7/24	7/26	沖縄・奄美, 九州南部, 九州北部地方, 四国地方, 中国地方	26日18時頃, 長崎県西海市付近を通過した。 26日19時頃, 長崎県佐世保市付近に上陸した。
13	8/6	8/9	沖縄地方	8/7	8/8	沖縄地方	上陸または通過せず。
14	8/7	8/11	東海地方, 関東甲信地方, 伊豆・小笠原諸島	8/8	8/11	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。
15	8/22	8/25	沖縄・奄美, 西日本, 東海地方, 北陸地方	8/23	8/25	沖縄・奄美, 西日本	23日19時頃, 西表島付近を通過した。 25日04時過ぎ, 鹿児島県阿久根市付近を通過した。 25日05時過ぎ, 熊本県宇城市付近を通過した。 25日0時過ぎ, 熊本県荒尾市付近に上陸した。
16	8/21	8/23	伊豆・小笠原諸島	8/22	8/22	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。
17	9/11	9/11	北日本	9/11	9/11	北海道地方	上陸または通過せず。
18	9/7	9/9	四国地方, 中国地方, 近畿地方, 東日本, 東北地方	9/8	9/9	四国地方, 中国地方, 近畿地方, 東日本	9日09時過ぎ, 愛知県渥美半島を通過した。 9日09時半頃, 愛知県西尾市付近に上陸した
20	9/18	9/19	伊豆・小笠原諸島	9/18	9/19	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。
21	9/26	9/29	沖縄地方	9/27	9/29	沖縄地方	上陸または通過せず。
25	10/21	10/23	伊豆・小笠原諸島				上陸または通過せず。
26	11/26	11/27	伊豆・小笠原諸島	11/26	11/27	伊豆・小笠原諸島	上陸または通過せず。

台風の中心が日本から概ね300 km 以内に入った場合を「日本に接近した台風」とした。

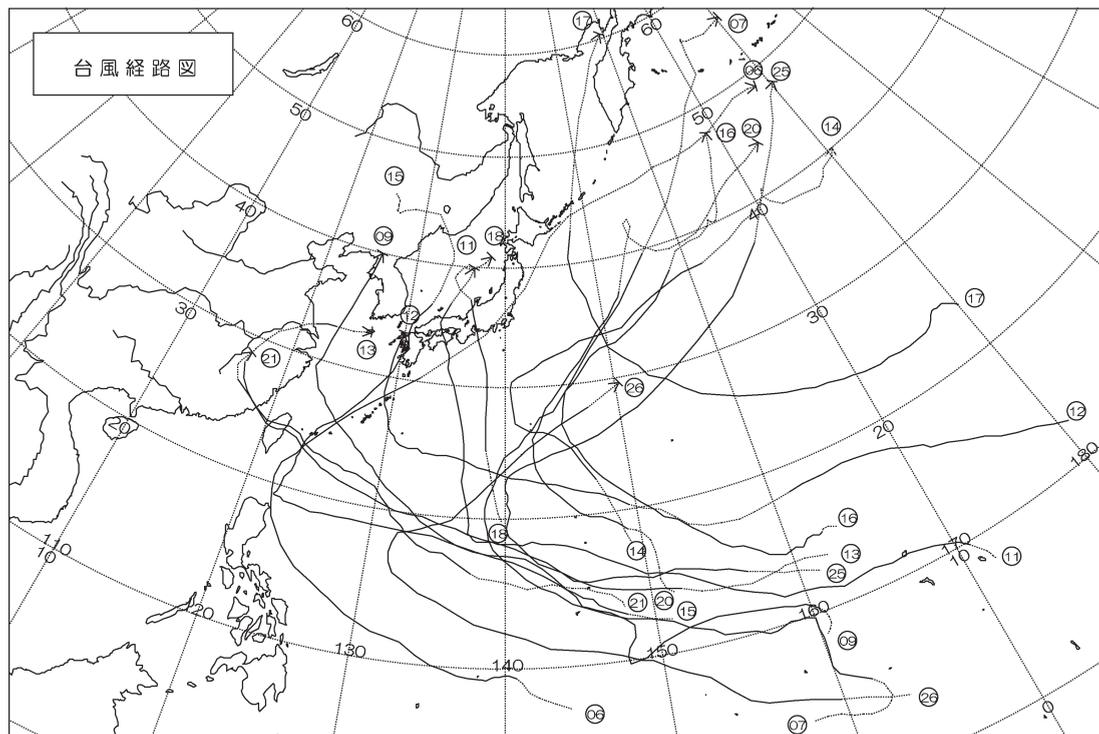
台風の中心が日本から概ね500 km 以内に入った場合を「日本に影響した台風」とした。

進み, 台風第12号となった。台風は西北西に進み, 進路を西に変えた後, 17日09時にウェーク島の西の海上で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は進路を西北西に変えた後, 再び発達して20日03時に北マリアナ諸島の東の海上で台風第12号となり, 22日03時に硫黄島の南の海上で勢力が最大となった。台風は進路を北に変え, 奄美群島を通過した後, 引き続き北に進み, 26日

18時に長崎県西海市付近を通過し, 同日19時に長崎県佐世保市付近に上陸した。その後, 台風は進路を北北東に変え, 同日21時に九州の北西の海上で熱帯低気圧に変わり, 27日03時に同海域で消滅した。

(6) 台風第13号 (1513 SOUDELOR ソウデロア)

7月30日03時にマーシャル諸島の北西の海上で発生



丸で囲った数字は台風番号である。→は消滅を示す。また、経路の実線は台風、破線は熱帯低気圧あるいは温帯低気圧の期間を示す。

第1図 2015年に日本に影響を及ぼした台風の経路図。

した熱帯低気圧は西へ進み、8月1日15時にマリアナ諸島の東の海上で台風第13号となった。台風は、徐々に進路を西北西に変え、4日03時にマリアナ諸島の西の海上で勢力が最大となった後、8日に台湾を横断し、9日21時に中国の南部で熱帯低気圧に変わった。熱帯低気圧は徐々に進路を東北東に変え、11日09時に東シナ海で再び台風第13号となった後、同海域で同日21時に熱帯低気圧に変わり、その後、同海域で12日03時に温帯低気圧に変わり、12日15時に済州島付近で消滅した。

(7) 台風第14号 (1514 MOLAVE モラヴェ)

8月6日09時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、進路を北西に変えた後、7日15時に小笠原諸島の南東の海上で台風第14号となった。台風は進路を北に変えた後、11日03時に鳥島の東の海上で勢力が最大となった。台風は速度を上げながら北東方向に進み、14日09時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わった後、東へ進み、18日09時に東経180度を越えた。

(8) 台風第15号 (1515 GONI コーニー)

8月14日03時にマリアナ諸島の東の海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、15日03時にグアム島の東の海上で台風第15号となった。台風は、17日15時にマリアナ諸島の西の海上で勢力が最大となり、徐々に進路を西に変え、3日間以上西に進んだ後、ルソン島の北の海上で急激に進路を北に変え、23日19時に西表島付近を通過した。その後、台風は進路を北東に変え、25日04時過ぎに鹿児島県阿久根市付近、同日05時過ぎに熊本県宇城市付近を通過した後、同日06時過ぎに熊本県荒尾市付近に上陸した。台風は、日本海に抜けた後、25日21時に隠岐諸島の北西の海上で温帯低気圧に変わり、同海域を北に進んだ後、30日21時に中国東北区内で消滅した。

(9) 台風第16号 (1516 ATSANI アッサニー)

8月14日09時にマーシャル諸島の北西で発生した熱帯低気圧はゆっくりとした速度で西に進み、15日03時に同海域で台風第16号となった。台風は北西に向きを変え、19日09時にマリアナ諸島の東で勢力が最大と

なった後、引き続き北西へ進み、小笠原諸島の東の海上を通り、徐々に進路を北東に変えた。台風は、日本のはるか東の海上で速度を上げながら北東に進み、25日15時に温帯低気圧に変わった。温帯低気圧は徐々に速度を下げながら引き続き北東に進み、29日21時にカムチャツカ半島の南東の海上で消滅した。

(10) 台風第17号 (1517 KILO キロ)

9月2日03時過ぎに、発達した熱帯低気圧がウェーク島の北東の海上で東経180度を越えて北太平洋西部に進み、台風第17号となった。台風は、東経180度を越える前の2日03時に勢力が最大となった後、西に進み、徐々に進路を北西に変えた。その後、台風は進路を北北東に変え、11日21時に北海道の東の海上で温帯低気圧に変わり、千島列島を通過した後、オホーツク海に進み、13日09時前に北緯60度を越えた。

(11) 台風第18号 (1518 ETAU アータウ)

9月6日09時に沖ノ鳥島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北北西に進み、7日21時に小笠原諸島の西の海上で台風第18号となり、8日15時に鳥島の南西で勢力が最大となった。台風は9日09時過ぎに愛知県渥美半島を通過した後、同日09時半頃に愛知県西尾市付近に上陸した。台風は、本州を進んで日本海に抜けた後、9日15時に能登沖で温帯低気圧に変わり、徐々に進路を北東に変えた後、12日03時に津軽海峡の西の海上で消滅した。

(12) 台風第20号 (1520 KROVANH クロヴァン)

9月14日03時にグアム島の東の海上で発生した熱帯低気圧は北へ進み、その後進路を北西に変えた後、16日03時に北マリアナ諸島の東の海上で台風第20号となった。台風は、引き続き北西に進み、17日21時に小笠原諸島の南の海上で勢力が最大となった後、徐々に進路を北東に変え、21日21時に日本の東の海上で温帯

低気圧に変わり、26日21時にアリューシャン列島の南で消滅した。

(13) 台風第21号 (1521 DUJUAN ドゥージェン)

9月20日03時にグアム島の東の海上で発生した熱帯低気圧は西に進み、徐々に進路を北西に変えた後、22日21時に沖ノ鳥島の南南東の海上で台風第21号となった。台風は引き続き北西に進み、27日09時に宮古島の南東の海上で勢力が最大となった後、進路を西に変え、28日18時に台湾に上陸した。台風は、台湾を横断して台湾海峡に進み、進路を北西に変え、29日09時に華南の沿岸に上陸した。その後台風は北西に進み、同日21時に華南で熱帯低気圧に変わった後、30日21時に華中で消滅した。

(14) 台風第25号 (1525 CHAMPI チャンパー)

10月13日09時にポンペイ島の北東の海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、14日09時に同島の北の海上で台風第25号となった。台風は、進路を北西に変えた後、速度を下げながら北へ進み、18日21時に沖ノ鳥島の東の海上で勢力が最大となった。その後、台風は進路を北東に変えて速度を上げながら進み、25日21時に日本のはるか東の海上で温帯低気圧に変わり、27日03時に東経180度を越えた。

(15) 台風第26号 (1526 IN-FA インファ)

11月17日03時にポンペイ島の南東の海上で発生した熱帯低気圧は西北西に進み、同日21時に同島の南の海上で台風第26号となった。台風は、引き続き西北西に進み、21日09時にグアム島の南西の海上で勢力が最大となった後、フィリピンの東の海上で徐々に進路を北東に変えた。その後、台風は27日09時に父島の東北東の海上で温帯低気圧に変わり、同日21時に同海域で消滅した。

(気象庁予報部予報課)